

# 30年後の庄内川と新川の関係

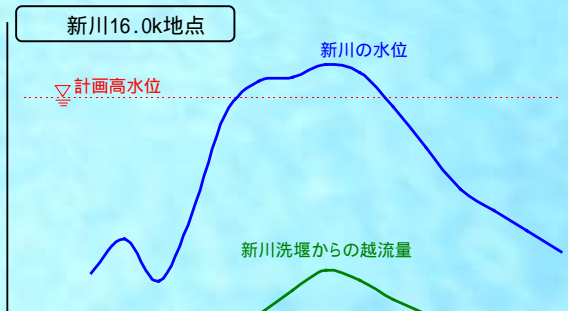
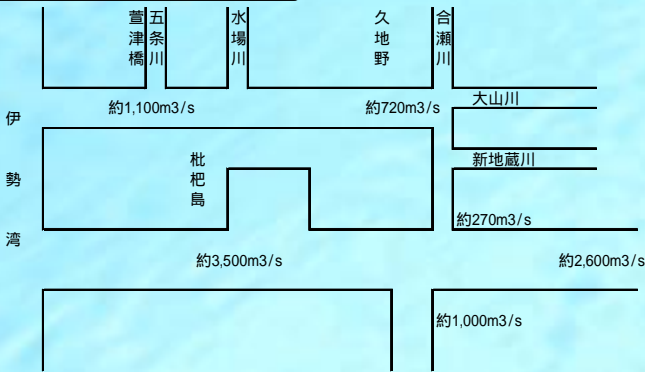


# 平成12年9月東海豪雨

【庄内川】既往最高水位を2m近く上回るとともに約15kmの長い区間で計画高水位を超過し、国道一号線一色大橋右岸下流側で越水するなど、非常に危険な状態。

【新川】流域の洪水流出に、新川洗堰から最大約270m<sup>3</sup>/sの洪水の流入が重なり、計画高水位を長時間にわたって超過し、名古屋市西区あし原町において破堤被害が発生。

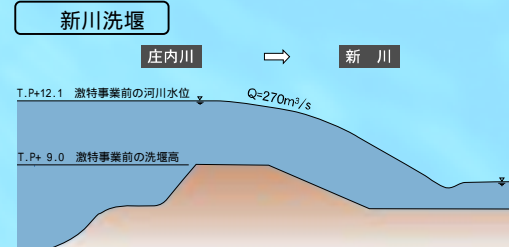
H12.9東海豪雨の実績流量



枇杷島三橋の出水状況



東海豪雨時の新川洗堰



# 庄内川・新川河川激甚災害対策特別緊急事業

庄内川・新川の一体的な治水対策により緊急的に安全度を向上(平成12年度～平成16年度)

## 庄内川の治水安全度の向上

新川への越流量を低減させることにより庄内川の流量が増加した分の流量についても、庄内川の河道掘削、堤防嵩上げ等により最低限の整備水準で概ね流下させることが可能になりました。(限られた期間における緊急的な整備のため、全ての区間において計画高水位以下で流下させることはできていません)。

## 新川への流入量の低減

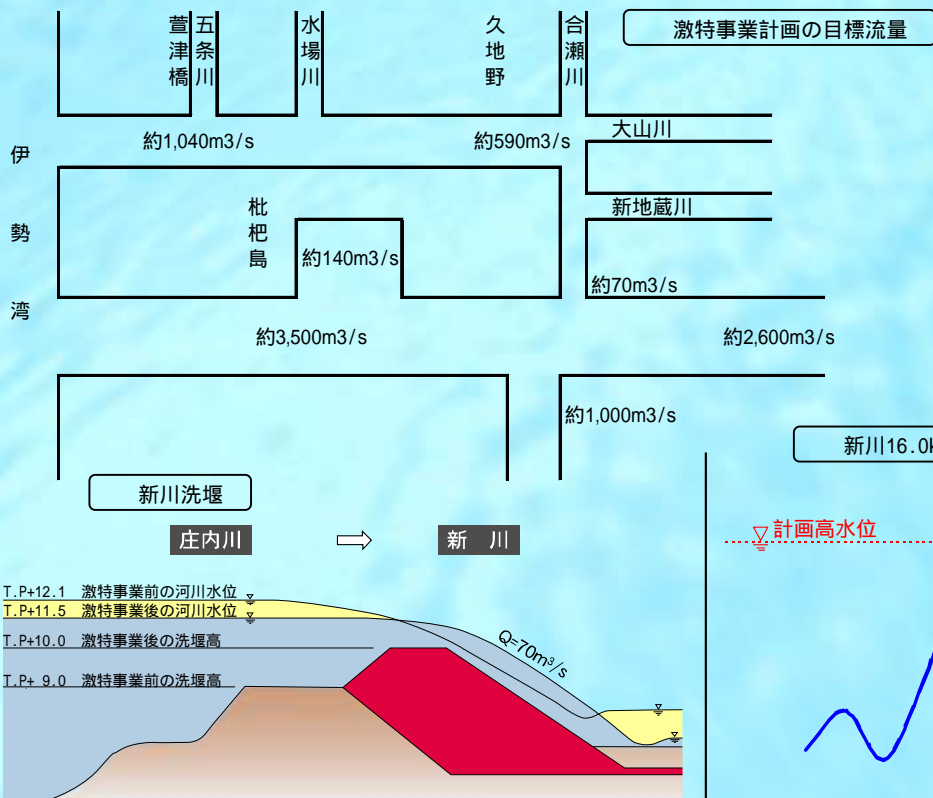
庄内川下流部の河道掘削により新川洗堰地点の水位を低下  
新川洗堰を約1m嵩上げ



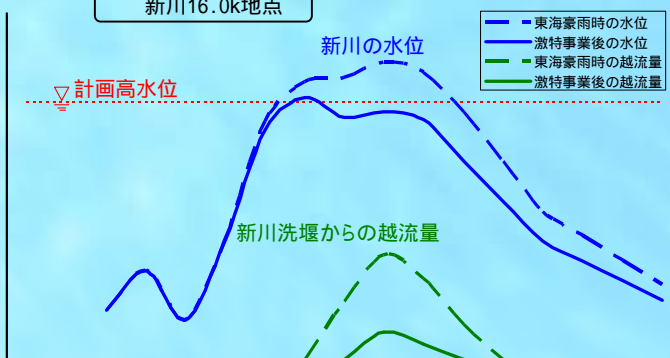
最大越流量を低減  
約270m<sup>3</sup>/s 約70m<sup>3</sup>/s

## 新川の安全度の向上

新川洗堰からの流入量の低減と、新川の河床掘削により水位を約100cm低下させ、概ね計画高水位以下で流下させることが可能になりました。



河道掘削後



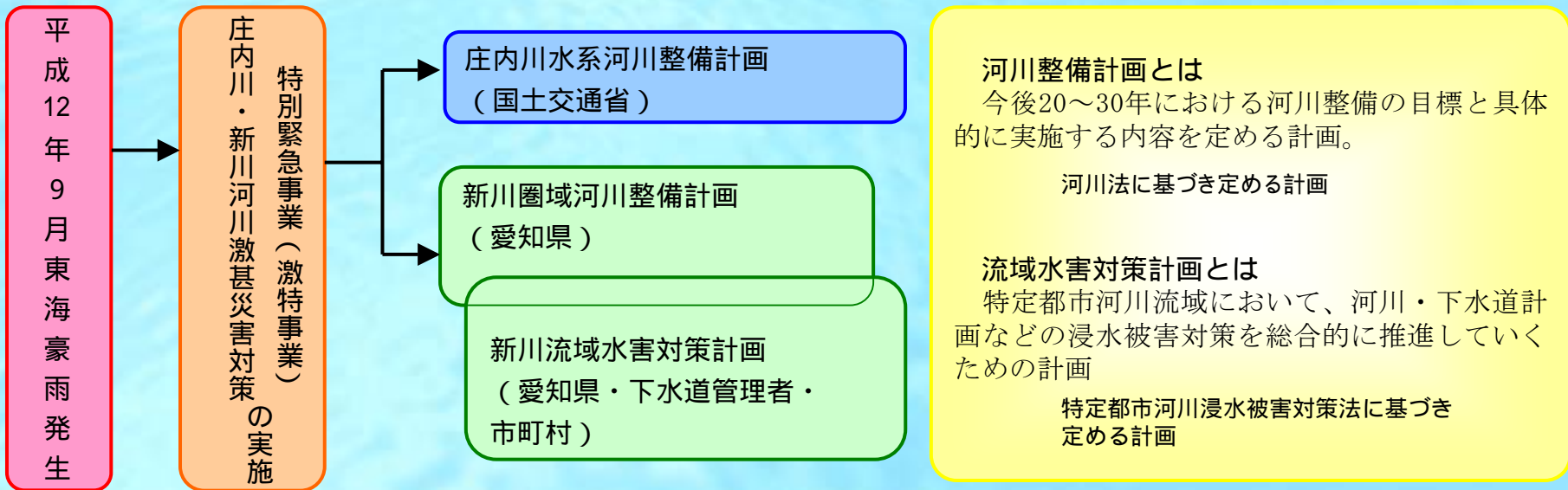
## 激特事業後の課題

激特事業は限られた期間における緊急的な再度災害防止対策であることから、庄内川では、計画高水位を上回る区間が残されているとともに、既設排水ポンプの排水量を見込んだ河川整備ができませんでした。このため、排水ポンプ場の運転調整が引き続き必要となります。



# 新たな計画を一体的に策定

庄内川と新川では、激特事業の次のステップの計画の検討を進めており、この計画においても、庄内川と派川である新川の相互依存のあり方など、庄内川と新川のバランスを考慮しながら河川整備を行っていきます。



目標とする整備水準は違いますが、庄内川と派川新川が相互に依存を図るとともに、それぞれの計画レベルにおいて整合が図れるよう一体的な計画の策定を目指します。

## 庄内川水系河川整備計画（案） 【国土交通省】

### 目標

東海豪雨と同規模の洪水を整備目標流量として、計画高水位以下で安全に流下させます。

### 内水の取扱い

市町や下水道事業者等の内水排除については、概ね1/5規模の降雨量に対する内水排水量を整備目標流量に見込んでいます。

## 新川圏域河川整備計画（案） 【愛知県】

### 目標

1/30規模等の洪水を整備目標流量として、計画高水位以下で安全に流下させます。

### 内水の取扱い

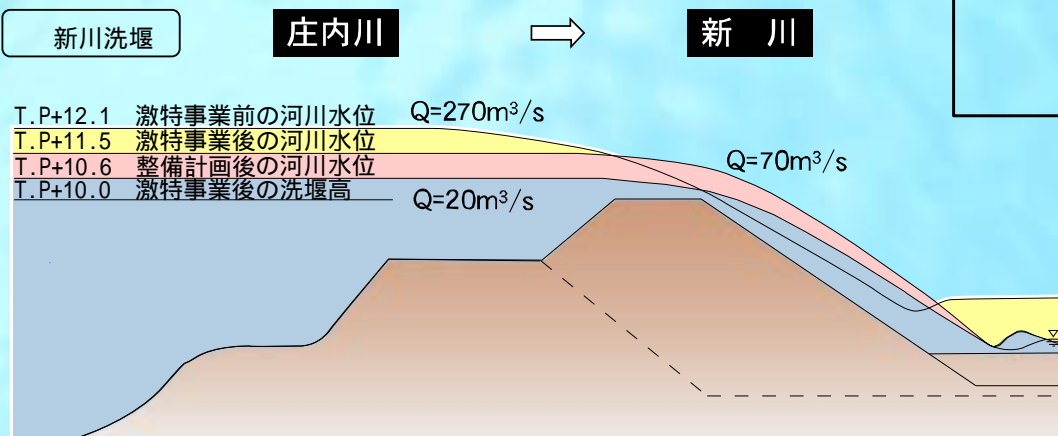
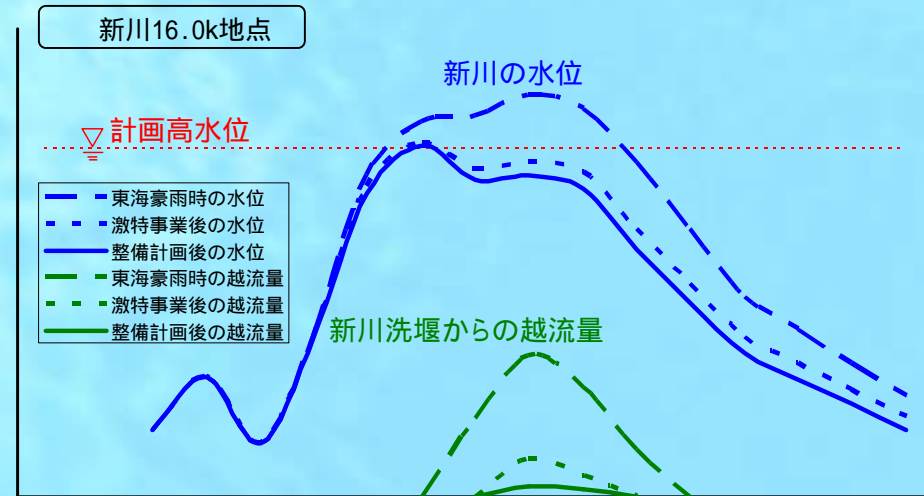
市町や下水道事業者等の内水排除、貯留浸透施設などを組み合わせ、1/10規模等の降雨量に対する内水排水量を整備目標流量に見込んでいます。

# 庄内川水系河川整備計画(案)による事業効果

河川整備計画(案)に基づく庄内川下流部の更なる河道掘削等により、新川洗堰地点において、激特事業後の河川水位を約90cm(激特事業前からは約150cm)低下させることができる。これにより、新川洗堰が現在の高さ(TP.+10.0m)でも東海豪雨と同規模の洪水が発生した場合、庄内川から新川への最大越流量を約70m<sup>3</sup>/sから約20m<sup>3</sup>/sに低減させることができる。

また、新川流域の洪水流出ピーク後に新川洗堰からの越流が始まるため、新川流域への影響はほとんど無い。

	東海豪雨時	整備計画前 (激特事業後)	河道整備後
庄内川水位	TP.12.1m	TP.11.5m	TP.10.6m
ピーク超流量	約270m <sup>3</sup> /s	約70m <sup>3</sup> /s	約20m <sup>3</sup> /s



東海豪雨時には、新川流域の洪水流出のピーク後に新川洗堰から越流開始

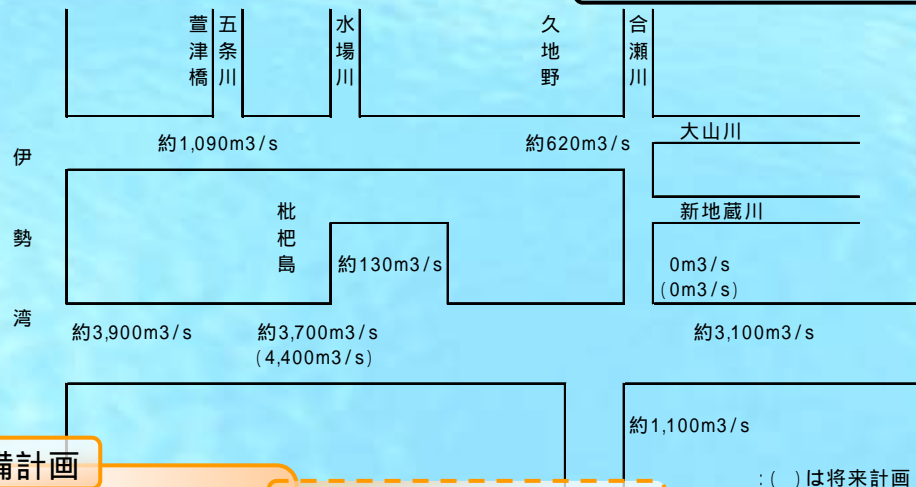
# 新川洗堰の取り扱い

庄内川の整備目標である東海豪雨と同規模の洪水では、新川洗堰が現在の高さ(10.0m)でも新川への影響がほとんど無いことを確認している。

しかし、新川流域は、特定都市河川流域に指定され、地域が一体となって浸水被害対策の総合的な推進を図っている流域であることを鑑み、東海豪雨と同規模の洪水が発生した場合でも、庄内川から新川へ越流しないように、**新川洗堰から下流側の庄内川の河川改修が完成した段階で越流量がゼロとなる対策を実施する。**

更なる対策については、流域全体における「危機管理のあり方」等を関係機関や地域住民等と十分に議論を行い、地域の合意形成を図りながら進めていく。

河川整備計画の目標流量



今回策定する河川整備計画

[ 河川整備計画 ]

- ・ 庄内川下流部の河道掘削、橋梁改築等の河川整備の推進

[ 地域の合意形成 ]

- ・ 流域全体における「危機管理のあり方」等に関する地域の合意形成

新川洗堰における対策

(整備目標流量に対しての越流量  $0 \text{ m}^3/\text{s}$ )

次回以降の河川整備計画

次回以降の河川整備計画

次回以降の河川整備計画

最終の河川整備計画

[ 河川整備計画 ]

- ・ 計画高水流量に対する河川整備が完成

新川洗堰における対策

(計画高水流量に対しての越流量  $0 \text{ m}^3/\text{s}$ )

整備目標流量に対して越流しない対策を実施



# 30年後の庄内川と新川の関係

新川圏域河川整備計画（案）【愛知県】  
（1/30規模等の洪水を対象）

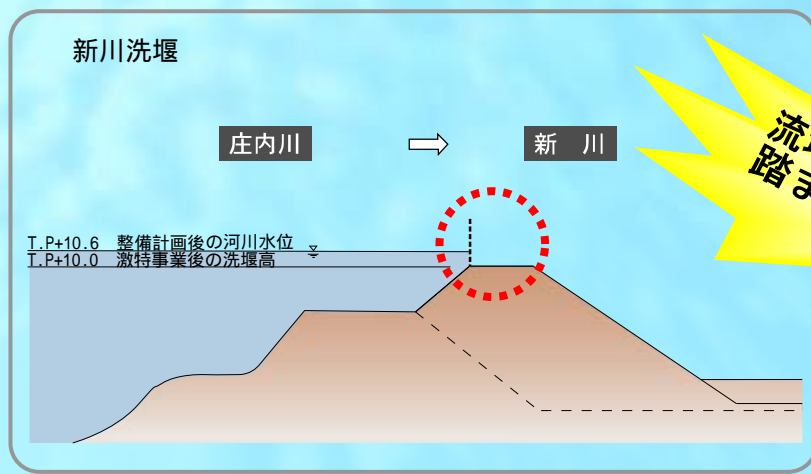
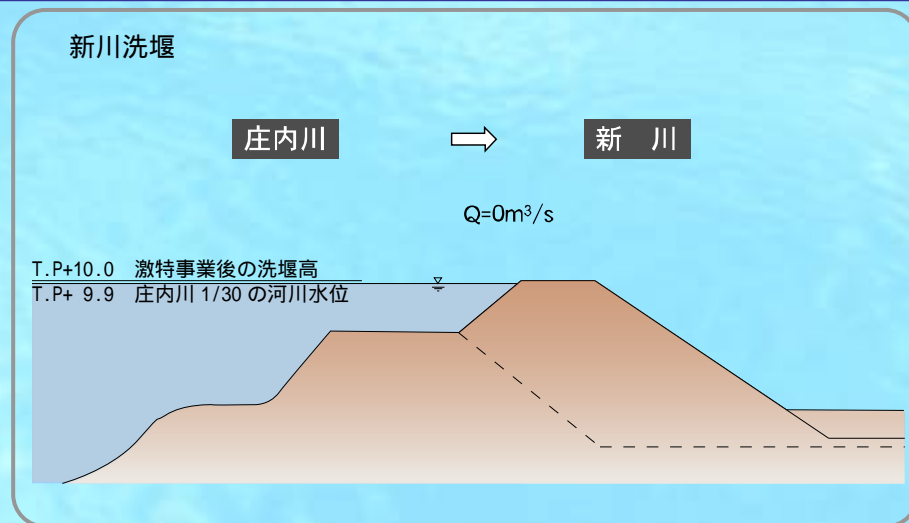
新川圏域河川整備計画（案）の目標降雨規模では、庄内川から新川への越流はない

新川圏域河川整備計画（案）の整備目標は、東海豪雨の洪水規模よりも小さな洪水を対象としており、この時、庄内川の洪水が新川洗堰から流入することはありません。

庄内川水系河川整備計画（案）【国土交通省】  
（H12.9東海豪雨と同規模の洪水を対象）

庄内川から新川へ越流しないような対策を実施

東海豪雨と同規模の洪水においては、新川流域の洪水流出ピーク後に新川洗堰からの越流が始まるため、新川流域への影響は、ほとんどありません。しかし、総合治水を推進している新川流域の状況に鑑み、庄内川流域全体における壊滅的被害の回避、被害最小化等の「危機管理のあり方」等について、地域の合意形成を図りながら、庄内川から新川へ越流しないような対策を実施します。



流域全体の危機管理を  
踏まえた対策を実施